

「一冊のノート」

上峰中 3年C組 道徳だより 3号
(2019. 5.31) 文責 ○○○○

5月22日に行った道徳の授業の感想文です。

- 家族が迷惑をかけても、自分が助けることが大切だと思いました。怒るんじゃなくて、しっかり分かってあげることが大切だとわかった。
- 自分との人生を生きていく中で、自分の場合はまだ14年しか生きていないけど、全てが「家族」と過ごしてきたわけである。当たり前のように年をとって、ささいなことしか変わることのない日常が当たり前だと思っていたけど、きっと自分より早く生まれた親や兄弟は自分より先に変わっていくのであると思う。それはささいな変化、当たり前から大きな変化に変わっていくんだなと思った。当たり前を当たり前と思わず、1日1日を大切にしたい。
- 最初は僕と隆の気持ちは本当に分かるけど、「一冊のノート」を見てから、おばあちゃんはこんな気持ちだったのかと感じました。人を勝手に判断することはよくないと思いました。自分の親もこうなるかもしれないけど、そんな時はあたたかく見守ってやりたいです。
- 自分のおばあちゃんもいつかはあんなふうになっちゃうのかなと思いました。物語を読んでいて、頭の中におばあちゃんとおじいちゃんの顔が浮かんで来て、改めて感謝しなきゃなと思いました。私がもう少し成長したら、おばあちゃんやおじいちゃんのお世話を嫌がらずにやっていきたいなと思いました。今、すごくおじいちゃんとおばあちゃんに会いたいです。
- おばあちゃんは一生懸命に家事をやってくれているのに、なぜ気づかなかったのかが不思議だった。だけど一冊のノートで考えが変わったので良かったなあと考えた。
- 今日の授業で、家族と一緒に暮らしているけど、知らなかったこととかあるんだなと思いました。ま

た、そういうことを知ってからその人のことをもっと考えて話したりしていかないといけないと思いました。だから、困っている人を見たら、見守ったり、手伝ったりしていこうと思います。

- 今日の授業では、家族がたとえ物忘れなどがひどくても、きつく言わないで自分が今までにもらったように優しく見守ろうと思うことができました。
- 私も家の人物が物忘れが激しくなったり「自分はしてない」と言い張ったりしているので、「僕」の気持ちがよくわかった。本人は一生懸命しているので、その手助けも大切だなと思った。
- 家族の大切さがわかったので、家族には優しくしようと思いました。
- 今日の授業で感じたことは私のおばあちゃんやおじいちゃんもそのうちこんなふうになるのだろうかと思ったことです。もしそうなら、今日の最後に考えたようにおばあちゃんやおじいちゃんの手伝いをやって、おじいちゃんやおばあちゃんを悲しませないようにしようと思いました。
- 僕の祖母は数年前に亡くなりました。今日の授業でこの話を読んで、もっと何かしてあげればよかったなととても思いました。僕はどんな人にも優しく接することのできるような人になりたいと思いました。
- 今日の授業で老化は怖いなと思いました。私のおばあちゃんも前に比べるとのを探ることが増えました。でも、この話を読んで、一番困っているのは本人自身で、周りがせかしたりすると、本人はもっと困ると思ったので、そういうふうになってしまった生活を支えていくのが大事だと思った。
- 今日の授業を通して、私は家族への愛情が足りなかったと思いました。普段過ごしてみんなと暮らしているのがあたりまえだと思っていたけど、人はいつかなくなったり、病気になってしまうから、感謝の気持ちを伝えたり、家族に優しく接しない



といけないと思いました。

- 私もおばあちゃんがこの物語のように物忘れが激しかったりしたら、男の子のようにおばあちゃんに言ってしまったりすると思います。おばあちゃんはおばあちゃんなりに頑張っているんだとこのおばあちゃんが書いた一冊のノートを読んでそう思いました。これからはおばあちゃん達には優しく大切にしていこうと考えました。
- 日頃ものを忘れることはあるけれど、祖母とかがちょっと違う感じだったり、物忘れが増えたりした時は責めないで手伝ってあげようと思った。
- 人間が年をとるにつれて記憶が薄れていくことはしょうがないことだから、その人のために自分に何ができるのだろうと考えることが大切だと思った。私もそういう場合に遭った時は今日の授業のことを思い出したいと思います。
- 今日の授業を通して感じたことは、おばあちゃんは一生懸命にやっているけど、周りから見たら一生懸命やっていないように見えていて、思うことは人それぞれなので、これからは相手の気持ちなどを考えて、今から行動をしていきたいです。
- 私のおじいちゃんとおばあちゃんがそうなくても怒ったりせずしていきたいです。まだ物忘れはひどくないので、今の間に思い出をたくさん残したいです。そして楽しくしていきたいです。
- 自分の父母も物忘れが激しくなる時が来るだろうから、その時は自分ができることは自分でやって、なるべく負担がかからないようにさせてあげたい。
- この授業で相手に合ったつきあい方をしなければいけないと思いました。人は歳をとると鈍くなるのがたくさんあるけれど、そういう人に合ったつきあい方をしたり、その人に合わせたりすると良いと思った。
- 年によりいつか死が待つなら子供の成長を見ていたいという思い。成長するのが嬉しいと、子供を

もっと見ていたいという悲しさもある。



- 僕もこの話を聞いて、たくさん親に文句や迷惑をかけてしまっているの、今日からたくさんの手伝いなどをしていこうと思った。僕はあまり一生懸命しないけど、この話を聞いて努力や一生懸命何事にも頑張ろうと思った。
- 私のおばあちゃんも物忘れがひどくなってきて、いい加減にしてよと思っていたけど、この本を読んで、これから支えていこうと思った。
- 僕も今までにおじいちゃんやおばあちゃんにひどく言ったことがあります。でも、今回の授業でおばあちゃんやおじいちゃんが家族のために自分に力のできることは一生懸命してくれているとわかったので、これからはひどく言ったりしないようにしたいです。
- 家族は大事だと思ったし、家族でも怒鳴ったりしてはいけないと思った。おばあちゃんには滅多に会わないので、遊びに行った時はお手伝いなどをしたいです。
- 家庭内の様子が違うから、普段とかでは考えられないけど、今までお世話になったばあちゃんを手伝ったり、助けたり、家に行った時にしようと思う。家族でも発言や相手の気持ちには気をつけようと思う。
- 今日の授業を通して、家族の大切さについて考えました。また、祖父母の物忘れがひどくなっていると、自分から何かきついことを言ったりすると、祖父母が深いことを考えたりして、自分を責めたりすると思ったので、優しく接してあげたいです。